

## 令和6年度 第3回 館山市子ども・子育て会議 要録

- 1 委員会名 館山市子ども・子育て会議
- 2 日 時 令和6年12月2日（月）10：00～12：00
- 3 会 場 館山市役所本館2階会議室
- 4 出席委員 石渡委員長、中島副委員長、石井委員、中村委員、高橋委員、田中委員、清宮委員、鈴木健一委員、吉井委員、石垣委員、鈴木ひとみ委員、古谷野委員
- 5 事務局 教育部長、こども課長、副課長、副課長兼家庭児童係長事務取扱、幼保係長子育て支援係長、黒川主事、佐藤主事
- 6 会議次第
  - 1 開 会
  - 2 議 事
    - (1) 『（仮称）館山市こども計画』素案の検討【資料①、②】
    - (2) 館山ユネスコ保育園の定員見直しについて【資料③】
  - 3 その他（報告）
    - ・こども家庭センターの設置について
  - 4 質疑・意見交換
  - 5 閉 会

## ■ 議事

### (1) 『(仮称)館山市こども計画』素案の検討

- ・事務局(子育て支援係長)、株式会社ぎょうせい堀内研究員より概要説明

#### <質疑応答>

##### 【石垣委員】

- ・計画には様々な事業があり、お金がかかるわけだが、これまでの資金面の分析と今後の資金計画は組まれないのか。

##### 【事務局】

- ・現段階で全体的な数字はつけられないので、優先順位をつけ、財政部門と相談しながら進めていく。

##### 【石垣委員】

- ・これまでの市の予算の中で、毎年検討、実行し、評価してきたと思う。その上で、過去の実績の分析は行わないのか。

##### 【事務局】

- ・今回のニーズ調査など、過去の分析は必要だと思うので、当然考えていくし、子どもに関しては国が非常に力を入れているので、財政部門にも訴えていく所存。

##### 【石垣委員】

- ・次回の会議にて数字で説明してもらいたい。全体的にこれまでの子育て支援にどれだけ費用をかけてきたか。計画なのだから、お金に関してなにもなくということはないと思う。

##### 【ぎょうせい】

- ・こども計画については、全国一般的な事例では資金面について掲載しない事例が多い。必ず載せなければならないものではない。

##### 【石垣委員】

- ・計画としてはそうかもしれないが、我々のように事業を行うものとしては費用面も必要だと思う。
- ・正確なところはわからないが、館山市の人口減少は全国よりも早く進んでいるのではないと思う。理由はいろいろあると思うが、“職がない”がその大きな要素であれば、収入がないということになる。市として独自にどのように魅力をだして、どう人を集めるか。前市長も現市長も子育てに力を入れますというが、どこに重点があるのかわからない。国、県から降りてきているものを一生懸命やろうとしているようにしかみえない。館山市としてどこに重点を置くのかを聞きたい。

##### 【事務局】

- ・目指すところは「子育てしやすい街」だが、財源の後ろ盾がないとできないということもある。昨年度はこども医療費の拡大、来年度からは OURS 館山がオープンする。こども家庭センターの設置も行う。やれるところから手をつけながら子育てしやすい街づくりを進めていきたいと思う。お金がないならないなりに、お金をかけずにできることがあるのではないかと考えていきたいと思っている。

【石垣委員】

- ・17 ページで0歳児の途中入所が難しいと言っていたが、定員数は見込を上回っているという説明だったと思う。どういうことか。

【事務局】

- ・園から保育士不足により0歳児の受入れが難しいと言われるところがある。

【石垣委員】

- ・70 ページでは定員は足りていると言っていたが、実際には保育士が足りず受入れができていないということか。その対策は計画に載っているか。

【事務局】

- ・ご指摘のとおりかと思われる。現状案には載っていないので検討する。

【鈴木委員】

- ・アンケート結果の中で、遊び場がないという意見が多かったが、44 ページの「こどもの居場所づくり」という短い文章の中に含まれているのか。「遊び場」として別に入れてほしいと思うが、どうか。プレーパークを始めている人もいるので、自然の中で遊べる場所は作っていいのではないか。児童遊園が各地区にあるが草が生い茂っていて遊べる状態ではないので、整備を考えていくべきではないか。

【事務局】

- ・居場所の考え方は多岐にわたる。例えば、こども食堂などに様々な年代の人が集い、高齢者も自分の役割をもてるような居場所を考えていきたい。私たちが小さい頃は仲間と一緒に自分たちで自然の中で工夫して遊んだ。今は仲間が減り、そういったことができなくなってきたと思う。具体的な部分は今後考えていきたい。

【議長】

- ・自然がいっぱいの館山で、自然に触れる場所がないという声に驚くが、そこには危険があるから近づけないという背景がある。アンケートの裏側にある本質的な部分も深く考えていかなければいけない。

【事務局】

- ・昔とは取り巻く環境が変わってきているのは事実。行政側で施設を整備することも必要だが、地域で子どもたちを見守ってもらえる仕組みを考えたい。

【中島委員】

- ・子どもたちが中央公園でスケートボードをもっていたので声をかけると、公園でスケートボードやると怒られると言っていた。「お父さんたちが小さいときはローラースケート場だった。スケートボードができるようになって市長に言ってくれよ」と言われた。子どもたちが遊ぶ場所、みんなと一緒にいられる場所が居場所になっていくのではないかと思う。新しい公園を作るのではなく、ローラースケート場をスケートボード場にするのはできるのではないか。居場所づくりという観点からみても必要だと思った。

【高橋委員】

- ・館山らしさが盛り込まれていると説得力がある内容になると思う。民間の視点からみると事業計画書に数値が入っていないのは気になる。人口減少により税収が減っているなかで、なるべく補助金に頼らないことが必要。行政だけでは限度があると思うので、民間との協働が必要かと思う。

【事務局】

- ・民間との協力が必要というのは思っていたところ。今後民間の協力を仰いでいきたい。

(2) 館山ユネスコ保育園の利用定員の見直しについて

- ・事務局（幼保係長）概要説明

<質疑応答>

【鈴木委員】

- ・ユネスコ保育園は海拔が低く、施設も老朽化している。本来ならば子どもたちの安全確保も考えるべきだと思う。  
すぐにはできないと思うが、館山幼稚園とユネスコ保育園とでこども園化というのは考えられないのか。館山地区はこども園がないので考えてほしい。

【事務局】

- ・私立園との合併がどうなのかとは思うが、将来的には館山幼稚園のこども園化というのは考えていかなければいけないと思う。

【議長】

- ・ユネスコ保育園の安全性については、この計画とは別に計画があるのか。

【事務局】

- ・今のところ聞いていないが、将来的なことは今後聞いていこうと思う。

■ その他（報告）

- ・事務局（副課長兼家庭児童係長）概要説明

<質疑応答>

【石垣委員】

- ・支援が必要な子どものことで園から相談するときは、こども家庭センターが窓口になると考えてよいのか。

【事務局】

- ・まずはこども家庭センターが窓口となる。

【田中委員】

- ・今は公園が整備されず、さみしい状況になっている。これでは子どもたちが遊べないと思った。思いやりのある街になってほしい。  
・子育てコンシェルジュとは？

【事務局】

- ・こども課窓口や元気な広場にて、2名体制で相談や子育て支援に関する情報提供等を行っている。

【田中委員】

- ・誰でもわかるように宣伝するといいかも。

【石井委員】

- ・19時半まで延長保育を行っているが、働き方改革の影響なのか、年々利用者数が減っていると感じる。0歳児の受入れは定数があっても保育士不足によって受け入れられないというのは実際にある。こども食堂は一時的にやっていたが、高齢化によりできなくなっている。若い人にサポートしてもらえれば何とかできるかなと思う。

【古谷野委員】

- ・屋外の遊び場を求めている方も多いが、屋内の遊び場も必要だと思う。

【鈴木委員】

- ・教育総務課が公表した学校教育 PR パンフレットをうまく計画に盛り込んでいくといいと思う。各委員に配布してほしい。

【石垣委員】

- ・保育士不足だが、OURS 館山の定員を考えると保育士を多く採用したんだと思う。どうなっているのか気になる。

【吉井委員】

- ・館山市の会議では、他市は恵まれているという意見をよく聴くが、実際に南房総市に住んでみるとそんな風には感じない。公園の管理や海岸清掃などはボランティアに委ねられていて、参加しないとお金をとられる。ボランティアありきではなく、行政主体になって公園の整備など行った方がよいのかなと思う。

【清宮委員】

- ・まだ入園者数がどうなるかわからないが、工夫して保育士の確保に努めている。市と民間との協力で行うので、情報交換しながら子育てしやすい館山市を目指していきたい。医療センターの保育所を利用している保護者と、OURS 館山に行くか他の園に行くか相談をしている。OURS 館山を選ぶ保護者もいれば、英語をさせたいから白百合こども園に行かせたいという保護者もいる。それぞれの園が特色を出して利用者の選択肢を増やしていくといいと思う。延長保育の利用が減少傾向にあるというが、育児中の短時間勤務や、残業・夜勤の免除など、企業側も子育てしやすいように、働きやすいようにと変わってきていると感じる。

【中村委員】

- ・小学1年生頃まで元気な広場を利用できるといいと思う。上の子が就学すると利用できなくなって困るという声を利用者から聞いている。